

牛久市社会教育委員会議事概要		日時	平成30年10月10日(水曜日)
件名	平成30年度社会教育委員会議	場所 時間	牛久市中央生涯学習センター 会議室 15:00~17:00
作成年月日	平成30年10月23日(火曜日)	作成者	生涯学習課：関 稔
出席者	(出席委員) 須藤京子、上田晃生、種子田孝子、松田元、唯根勉、宮下英彌、竹上謙一、佐々江健治、 (牛久市) 教育部長 川井聡、次長 飯野喜行、生涯学習課長 中野祐則、スポーツ推進課長 齋藤勇、 中央図書館長 関達彦 (事務局) 生涯学習課長補佐 山越義弘、副参事 関稔、主任非常勤職員 佐藤純子 (傍聴者) なし <div style="text-align: right;">(順不同・敬称略)</div>		
議事内容	1) 多世代の行事参加について ・生涯学習課 ・スポーツ推進課 ・中央図書館		
会 議 内 容 等			

1. 開会  
 2. 挨拶  
 3. 議事

1) 多世代の行事参加について

・生涯学習課          ・スポーツ推進課          ・中央図書館

上記内容について、各課長、館長から、資料に基づき説明

**【質疑等】**

委員：図書館の事業の中で他とコラボレーションするというそのきっかけは何かあったんですか。

図書館長：広報政策課と協議を行い、アドバイスをいただきました。いろんな世代を図書館に呼び込むためには外からの力を借りよう、牛久市内のいろんな方々の協力を得ようということになったわけです。

委員：これらの行事参加、どういう年齢構成なのか、どの地区が多いのかというのはわかりますか。

生学補佐：鯉まつりは統計がとれませんが、その他は情報がありますので後で出すことは可能です。家庭教育学級は、各学校幼稚園で行っていますのでその地区・学校・幼稚園ということになります。

スポーツ推進課長：ほぼ参加者が特定できていますので活用が可能です。

図書館長：お話し会は親子で参加が多く、子どもは年齢を特定されていますからそれに加えてその親なので概ねの傾向は掴んでいます。一般はご年配の方が多い傾向です。

委員：多世代を対象に募集したが、子どもしか、あるいは大人だけしか集まらなかったという事業があると思います。岡田地区はスポーツの事業が2つしか出ていない。

議長：スポーツ推進課では奥野地区の多世代行事が多く組み立て易いが、岡田地区は対象人数が多いので多世代を対象とした行事を組むというのは難しいというのがこの資料から伺うことができます。行事としてはたくさんあるが、多世代を対象としたもの以外はこの資料に載っていないということです。

委員：スポーツ少年団は子供とその親、それもないので資料の幅が狭い感じがした。

議長：市が事業化しているもの、実行委員会形式のもの、事業として全部お任せしているものとあります。スポーツは3地区に補助金を出しており、主体的に実行委員会が行っています。そこに社会教育委員として意見を投げかけていける部分はあるんですか。

進課長：提言としてお話しできると思います。

図書館長：お話し会はボランティアが主体で、そこに司書と一緒に参加している形です。

議長：社会教育委員として意見を言うことで、団体の活動に踏み込みすぎて阻害するようなことであってはいけない。社会教育委員としてどういった点を踏まえて提言していったらいいのか、事業全般をみるのか、1つ2つを挙げながらその中でより具体的な委員の皆さんの意見を頂戴したい。

委員：これを十分と捉えることもできるでしょうし、一方では足りない考えることもできると思います。どちらをやるべきかを決定したほうがいいのか、この人数を増やしていきたいのか、減るのを抑制したいのか、みなさんのご意見をお伺いしたい。

委員：費用対効果を考えた方がいい。運営に税金を投入しているので多くの方が参加して頂けるような考えをもって、募集の仕方とかいろんなことを考えてたほうがいい。ひとつの行事で参加人数が多かったという事は評価できることであり、人数を求めていくのは外せないことだと思います。

委員：幼児から高齢者までいろんな方が参加しているが、その中で父親がどれだけ参加しているのかということになるとたぶん父親の数は減ると思われま。父親がどれだけ参加しているのか数的に掴んでみたい思いがあります。それができるのであれば、もっと父親の参加できる行事を考えていかないといけないと思います。

委員：スポーツ関係だと世代ごとの参加人数は把握できる。そういう意味ではものによってだいぶ違うんじゃないかなと思います。最初にやるには人をどれだけ集められるかということ。募集を多くするということが、これを前提に考えて事業をつんでいると思います。そこで費用対効果をみたときに、どこが一番理想的なのか。これはなかなか難しいと思いますが、そこまで絞り込んでいかないといけないものは生まれません。それぞれの課題が、何があるのか、それぞれが見えるようにしていく必要があるのかなと思う。

委員：図書館で行事を行ったとしても参加しているのは高齢者ばかりです。どうすれば現役世代のお父さんお母さんが参加してくれるんだろうか。設定が悪いのか判断がつかない。それをどう捉えていったらいいのか。

委員：公演事業では、対象を40代50代60代の人に絞ったものが多い。子育て世代のファミリー向けのもはそれほど取り組めない。年間4本なので、お客さんを多く入れることを考えるとファミリー向けは冒険。今はお客さんがたくさん入るものから選んでいます。ただし「子どもの育ち」は大事にしたいという思いはあります。

委員：文化協会では各団体高齢化して、維持できないから脱退する団体がでてきています。退職された方はいっぱいいるはずなんですけど、こういう活動には入ってこない。どうやって魅力あるものにしようかということが今の課題です。

委員：子どもは居るんです。他は子どもが少なくなって学校が統合されているところもありますが、牛久市はそういう面ではいいです。

委員：体育協会は加盟団体が37団体あります。団体によっては高齢者だけの団体もあります。たとえばグラウンドゴルフ。若い人は入れないのか時間がないのかわからない。若い世代は、子どもを教えながらやっているという団体もあります。親の代と子どもの代、親子で取り組むような組織づくりもあります。

委員：牛久市では母子家庭・父子家庭はどのくらいあるんですか。ある市町村では母子家庭が多いのでスポーツ少年団には入れられないというところがあります。

議長：一人親家庭は増えてきてはいます。ただし世帯数の何パーセントなのかまでは、今はちょっと…。

委員：学校行事は行事によりまして保護者の参加率は牛久市では高いです。中学校の体育祭は保護者の参加率が減るんですが、市内の中学校は他市町村で言われているような少なさはないような気がします。

保護者が多いことに驚きました。家庭教育学級はたしかにお父さんの参加は少ないです。

議長：参加人数の問題、構成メンバーをみて提言にもっていく、その方向性をみつけないかと思ひます。その点は何かご意見はござひますか。

委員：議長が先ほど、社会教育委員が提言しすぎないほうがいいのではないかというお話をされていましたが、スポーツではそれはほぼないと感じてひます。牛久地区の市民体育祭は半数近くが65歳以上の方だと思われまひます。ただし65歳以上の方が参加できる種目は17種目中2つしかありまひません。参加する世代に合わせて種目を変えていこうよという話がでるんですが現実には反映されなひ。行政のスタッフの方々の方角を具体的に提言していただいたほうがプラスになると思われまひます。

委員：子ども会の役員として市子連に出てこられる親御さんは全部女性です。男性は一人もひません。子どもの育成に関わることなので、せめて半数ぐらひは男性が出てきて欲しいなと思ひます。市子連の活動は全部土日です。大半の過程ではお父さんも家にいらっしやるのに男性はひとりも出てこないのが実状です。そこをなんとか崩す方法はないだろうか。

議長：今、説明頂ひた中で、踏み込んで提言までもっていくのは私たちの力では難しいと感じまひました。今後としては、担当課ではどうひう点について課題として捉えてひるのか挙げていただひて、事業の中身というよりは、課題について私たちが提案してひるのが効率的ではないかと判断しまひました。それでは生涯学習課からどうひう点について意見を聞きたいかというところをお願ひしまひます。

生学補佐：全体では親子で参加はお母さんとお子さん、若い世代の男性お父さんの参加が少ないというのが課題となつてひます。それと高齢化というのがあります。

本進課長：施設の利用者が高齢化となつております。平日は60代後半から70代の方が殆どです。施設も老朽化してひます。施設の利用者も減少傾向にありまひます。高齢化と少子化で施設の利用が減つてきてひます。

図書館長：図書館は図書の貸し借りだけではなく、司書という専門の職員が配置されております。悩み事や課題の解決の支援をしてひます。いつも利用してひる人だけではなく、図書館を利用してひない人をいかに呼び寄せるかが課題です。それと「高校生の読書離れ」と言われて久しいので高校生にいかに図書館を活用してもらえるか、この2点について助言いただひければと幸ひす。

議長：今、三課から課題をあげていただきました。皆さんにアンケートで、こうしたらいいんじゃないかということをお書きいただひき、それを資料にさせていただひて話を進めていきたいと思ひてひます。アンケートを頂戴し、それを取り纏めて小委員会を開催し、次の委員会につなげるとひう段取りで進めさせていただひてよろしいでしょうか。

委員長の方角のポストについても今後は大学の教授であるとか、社会教育に精通されて熱意のある方で長期間あたれるという方が相応しいと思ひてひます。それも提言の中に入れていただひきたいと思ひてひますので、ご協議いただひきお考えを集約させていただひければと思ひてひます。

## 6. 閉会